

2015 年後期

$x, y, z$  を整数とする.

- (1)  $y \neq 0$  かつ  $yz \neq -1$  のとき,  $\left|y + \frac{1}{z}\right|$  の最小値を求めよ.  
 (2)  $\frac{1}{x + \frac{1}{y + \frac{1}{z}}} = \frac{9}{11}$  を満たす  $x, y, z$  の組をすべて求めよ.

**考え方** (1) は地味に難しいです. 厳密に解こうとするとなかなか大変です (注). 今回は, ある程度直観的に考えたいと思います. まずは,  $\left|y + \frac{1}{z}\right|$  の解釈です. 「絶対値を外そう」など思わずに意味を考えます.  $\left|y + \frac{1}{z}\right| = \left|y - \left(-\frac{1}{z}\right)\right|$  と考えれば,  $\left|y + \frac{1}{z}\right|$  は, 数直線上での  $y$  と  $-\frac{1}{z}$  の距離を表しています. 次のポイントは,  $y$  と  $z$  は独立に動くということです. 数直線上の距離をイメージしながら,  $y$  と  $z$  をそれぞれ変化させると最小となる  $y$  と  $z$  は自ずと分かります.

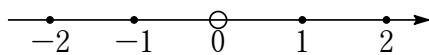
(2) は, もちろん (1) の結果を使います.

**解**

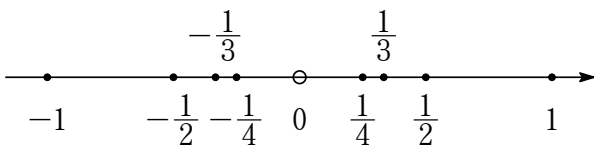
(1)  $\left|y + \frac{1}{z}\right| = \left|y - \left(-\frac{1}{z}\right)\right|$  より,  $\left|y + \frac{1}{z}\right|$  は, 数直線上での  $y$  と  $-\frac{1}{z}$  の距離を表している.

また,  $yz \neq -1$  より,  $y + \frac{1}{z} \neq 0$  なので, その距離は 0 ではない.

$y \neq 0$  より,  $y$  は 0 以外のすべての整数点を取り得る.



また  $-\frac{1}{z}$  は,  $\pm 1, \pm \frac{1}{2}, \pm \frac{1}{3}, \dots$ , という点をとるので, 数直線上では下図のように,  $-1 \leq -\frac{1}{z} \leq 1$  内の点として存在する



いま, この 2 つの数直線を重ねて考えると,  $y$  と  $-\frac{1}{z}$  の距離 ( $\neq 0$ ) が最初となるのは,

$$y = 1 \quad \text{かつ} \quad -\frac{1}{z} = \frac{1}{2}$$

または

$$y = -1 \quad \text{かつ} \quad -\frac{1}{z} = -\frac{1}{2}$$

のときで, そのときの距離は  $\frac{1}{2}$  である.

したがって,  $(y, z) = (\pm 1, \mp 2)$  (複号同順)

のとき,  $\left|y + \frac{1}{z}\right|$  の最小値  $\frac{1}{2}$  である.

$$(2) \quad \frac{1}{x + \frac{1}{y + \frac{1}{z}}} = \frac{9}{11} \quad \text{より,}$$

$$x + \frac{1}{y + \frac{1}{z}} = \frac{11}{9} \quad \dots(\ast)$$

ここで,  $y = 0$  とすると,  $x + z = \frac{11}{9}$ .  $y$  と  $z$  は整数なので矛盾.  $\therefore y \neq 0$

さらに,  $y + \frac{1}{z} \neq 0$  より  $yz \neq -1$  なので,  $y$  と  $z$  は (1) の条件を満たしている. よって,

$$\left|y + \frac{1}{z}\right| \geq \frac{1}{2}$$

$$\left|\frac{1}{y + \frac{1}{z}}\right| \leq 2$$

$$-2 \leq \frac{1}{y + \frac{1}{z}} \leq 2$$

$$-2 \leq x - \frac{11}{9} \leq 2$$

$$-\frac{7}{9} \leq x \leq \frac{26}{9}$$

$x$  は整数なので

$$x = 0, 1, 2, 3$$

(i)  $x = 0$  のとき,  $(\ast)$  より

$$y + \frac{1}{z} = \frac{9}{11}$$

$$\frac{1}{z} = \frac{9}{11} - y \quad \dots\textcircled{1}$$

$$-1 \leq \frac{1}{z} \leq 1 \text{ より}$$

$$-1 \leq \frac{9}{11} - y \leq 1$$

$$-\frac{2}{11} \leq y \leq \frac{20}{11}$$

$y$  は整数なので,  $y = 0, 1$

このとき, ① より,  $z$  は整数にならないので不適.

(ii)  $x = 1$  のとき, (※) より

$$y + \frac{1}{z} = \frac{9}{2}$$

$$\frac{1}{z} = \frac{9}{2} - y \quad \dots \textcircled{2}$$

$$-1 \leq \frac{1}{z} \leq 1 \text{ より}$$

$$-1 \leq \frac{9}{2} - y \leq 1$$

$$\frac{7}{2} \leq y \leq \frac{11}{2}$$

$y$  は整数なので  $y = 4, 5$

このとき, ① より,  $z = 2, -2$

(iii)  $x = 2$  のとき, (※) より

$$y + \frac{1}{z} = -\frac{9}{7}$$

$$\frac{1}{z} = -\frac{9}{7} - y \quad \dots \textcircled{3}$$

$$-1 \leq \frac{1}{z} \leq 1 \text{ より}$$

$$-1 \leq -\frac{9}{7} - y \leq 1$$

$$-\frac{16}{7} \leq y \leq -\frac{2}{7}$$

$y$  は整数なので  $y = -1, -2$

このとき, ① より,  $z$  は整数にならないので不適.

(iv)  $x = 3$  のとき, (※) より

$$y + \frac{1}{z} = -\frac{9}{16}$$

$$\frac{1}{z} = -\frac{9}{16} - y \quad \dots \textcircled{4}$$

$$-1 \leq \frac{1}{z} \leq 1 \text{ より}$$

$$-1 \leq -\frac{9}{16} - y \leq 1$$

$$-\frac{25}{16} \leq y \leq \frac{7}{16}$$

$y$  は整数なので  $y = 0, -1$

このとき, ① より,  $z$  は整数にならないので不適.

以上より, 求める  $x, y, z$  の組は

$$(x, y, z) = (1, 4, 2), (1, 5, -2)$$

◆注 (1) について. 解では数直線上の点をイメージして, 直感的に解答しましたが, 純粋にやるなら次のような手法になるでしょう. ポイントは「三角不等式」です.

▷Point◁(三角不等式)

$|A| \geq |B|$  のとき

$$|A| - |B| \leq |A + B| \leq |A| + |B|$$

前半の不等式で等号成立は  $AB \leq 0$  のとき

後半の不等式で等号成立は  $AB \geq 0$  のとき

証明は省略します.

今回の場合,  $|y| \geq \left| \frac{1}{z} \right|$  なので, この三角不等式で  $A = y, B = \frac{1}{z}$  とすれば,

$$\left| y + \frac{1}{z} \right| \geq \left| y \right| - \left| \frac{1}{z} \right| = \left| y \right| - \frac{1}{|z|}$$

$yz \neq -1$  なので,

$|y| \geq 2$  ならば,  $z$  は 0 以外のすべての整数をとり得る.

$|y| = 1$  ならば,  $z$  は  $\pm 1$  以外のすべての整数をとり得る.

$|y| \geq 2$  ならば,  $\frac{1}{|z|} \leq 1$  なので

$$\left| y \right| - \frac{1}{|z|} \geq 2 - 1 = 1$$

$|y| = 1$  ならば,  $\frac{1}{|z|} \leq \frac{1}{2}$  なので

$$\left| y \right| - \frac{1}{|z|} \geq 2 - \frac{1}{2} = \frac{3}{2}$$

したがって,  $\left| y + \frac{1}{z} \right|$  が最小となるのは,

$|y| = 1$  かつ  $|z| = 2$ , さらに,  $yz \leq 0$  の時であるので,  $(y, z) = (\pm 1, \mp 2)$  (複号同順) のとき,  $\left| y + \frac{1}{z} \right|$  の最小値  $\frac{1}{2}$  である.